

「平成27年度における環境調査の結果等について【長野県】」に対する長野県からの助言と事業者の対応方針

長野県からの助言	事業者の対応方針
<p>1 水資源 (1) 地下水の水位、湧水の水量又は地表水の流量について、3月から4月にかけて大きく増加する地点と、ほとんど変化がない地点が見受けられるので、こうした傾向の違いが生じる原因についても把握するよう努めること。</p>	<p>標高の違いや集水域の違いが原因と推測されますが、明確な原因は把握できておりません。引き続き、データの蓄積により原因の把握に努めてまいります。</p>
<p>(2) 地下水の水位、湧水の水量及び地表水の流量について、各年度のデータを同じグラフ上に記載するなど、年度ごとの比較が容易にできるようにすること。</p>	<p>年度毎の比較が容易にできるよう、次年度版から工夫してまいります。</p>
<p>(3) 代表的な調査地点については、地下水や表流水の水位について連続測定を行うことを検討すること。</p>	<p>重要な井戸の調査地点のうち、代表的な地点について、所有者や管理者の協力が得られ、水利用に支障を及ぼさない範囲で、自記水位計による連続観測を検討いたします。</p>
<p>2 植物 植物の移植・播種について、トダイアカバナの移植を除いて10月下旬から11月上旬に実施しているが、現地は標高が高くこの時期では遅いと考えられるため、専門家等の助言も踏まえ適切な時期に実施すること。</p>	<p>これまでも専門家の意見を伺いながら、適切な時期に実施してきましたが、助言を踏まえ、標高の高い地点については平地よりも早めの実施を検討してまいります。</p>
<p>3 動物 ミゾゴイ、ブッポウソウは夏鳥であり、基本的な情報として渡来・渡去の時期が重要となるため、地元の研究者からの聞き取り等による把握に努め、そうした情報も報告書に記載するとともに、具体的な環境保全措置の検討に活用すること。</p>	<p>四徳大橋のブッポウソウについては、県道松川インター大鹿線道路トンネル工事と連携して聞き取りを行いました。今後、環境保全措置の検討に活用してまいります。また、ミゾゴイについても引き続き地元の研究者からの聞き取り等による把握に努めます。</p>